

名古屋レーダーによる北陸豪雪のレーダー解析 (本文319~322頁参照)

立平良三・深津 林

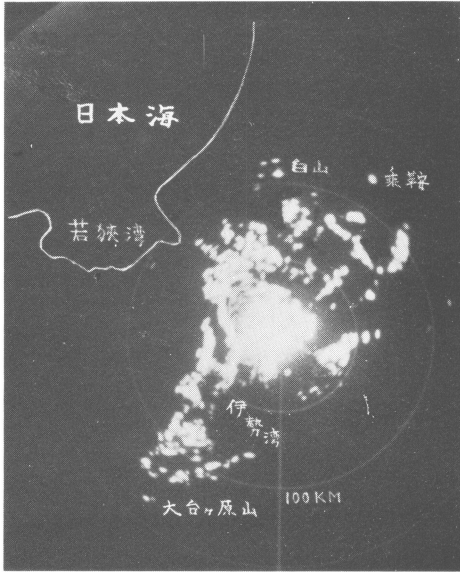


写真 1

名古屋レーダーによるグラウンド・エコーの PPI 写真。写真2 以下の PPI 写真で、このグラウンド・エコー以外のものが雪エコーである。  
名古屋レーダーの主要性能は次のとおり：  
波長…5.7cm, 送信出力…300kw  
ビーム巾…1.5°, パルス巾…1 $\mu$ s,  
最小受信感度…-104dbm

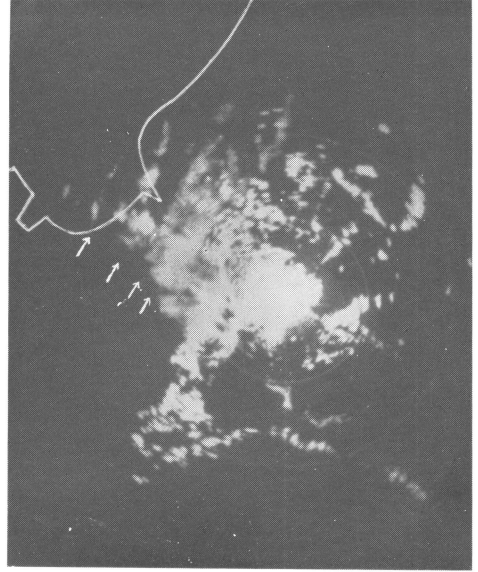


写真 2

WNW 風の時の風向に直角な線状構造 (昭和38年1月12日18時35分)。  
距離マーカーは 50km 間隔。福井県の海岸線が白線で入れてある。矢印は線状エコーを示す。

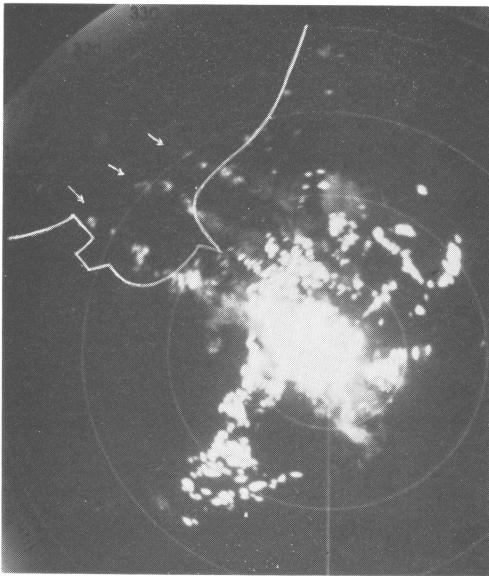


写真 3

WNW 風の時の風向に平行な線状構造 (昭和38年1月13日11時52分)。  
距離マーカーは 50km 間隔。福井県の海岸線が白線で入れてある。矢印は線状エコーを示す。

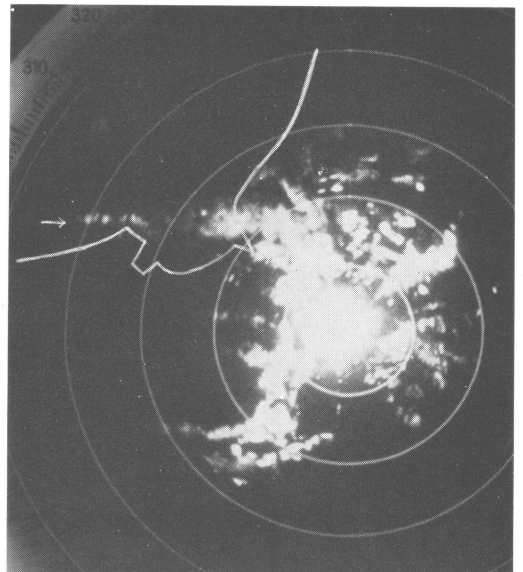


写真 4

WSW 風の時の風向に平行な線状構造 (昭和39年2月1日15時10分)。  
矢印は線状エコーを示す。

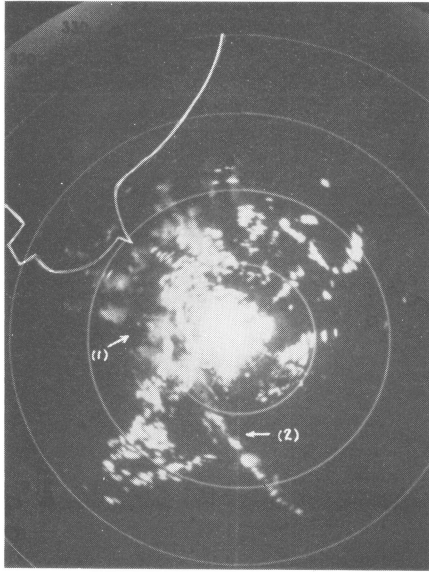


写真 5

伊勢湾に出て再び対流性になったエコー  
(昭和39年1月20日00時47分).  
レンジマーカーは 50km 間隔. 矢印(1)は琵琶湖付近の層状エコー, 矢印(2)は志摩半島沖の再び対流性になったエコーを示す.

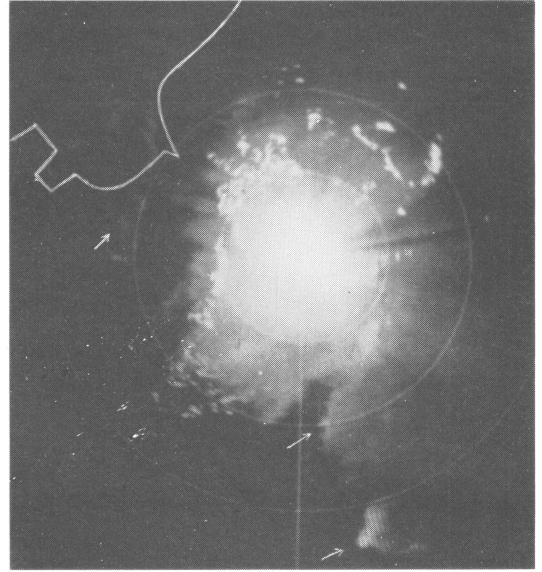


写真 7

低気圧に伴う雪エコー(昭和37年1月1日17時19分)  
2つ玉低に伴うもので, 大平洋側の中心は潮岬沖にあった.  
距離マーカーの間隔は, 50km. 矢印は上空のセル構造.

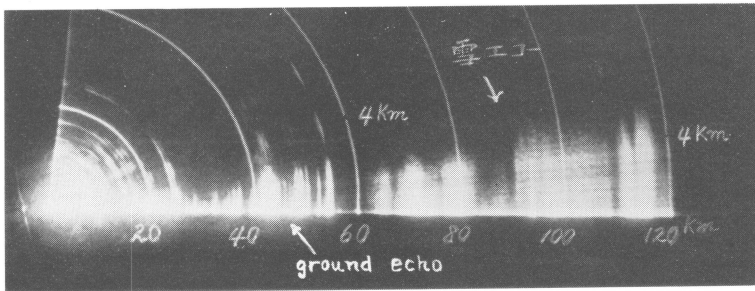
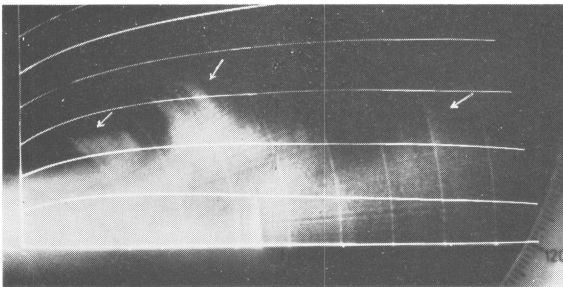
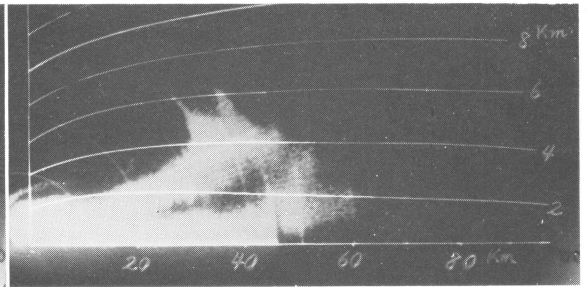


写真 6

RHI で見たエコー・セルの変化 (昭和39年3月8日13時20分, 295°の方向).  
この RHI では, 仰角は5倍に拡大されており, 鉛直線が円弧になっている.



(a) Log



(b) Iso

写真 8

RHI で見た低気圧の雪 (昭和37年1月1日17時49分, 100°の方向).  
矢印は上空の対流性セル, 等エコー装置により強い部分だけ残した写真 (b) によれば, セル構造およびそれより伸びる尾流がよくわかる. 鉛直線が円弧になっていることに注意.